

私は日ごろ、企業の研修現場で若いビジネスパーソンたちと数多く接しています。私の生業としている研修プログラムが「一個のプロフェッショナルであるとは何か?」「よりよき仕事とは何か?」を主テーマとしているだけに、若きビジネスパーソンの働くことに対する迷いや悩みがよくわかります。

二〇代は知識をどう身に付けるか、技能をどう磨くか、みずからの強み・専門性をどう見つけるかなど、問題の輪郭は、比較的是つきりしています。

ところが三〇代になると、仕事やキャリアの判断上で何が正しいのか正しくないのか、自分は職業人としてどこに進んでいこうとしているのか、そもそも働く目的は何なのか、といった正解値のない問いにより深く惑いはじめます。

しかし、日々降ってくる仕事目標はきつくなり、職責も上がり、後輩や部下もできてくる。プライベートでも家庭を持つようになる。輪郭のはつきりしない大きく鈍い悩みに対し、腹や胸がいつこうに落ち着かない状態にありながら、外堀だけはだんだん固め

られていく……それが三〇代の問題です。

二〇代と三〇代とでは、仕事・キャリアに向かう意識をがらり変えなければなりません。自分に問わねばならない問題の質が根本的に変わるからです。

何十年と続く職業人生を航海に例えるなら、次の三つが求められます。

- **自分という船を強く性能よく造ること**
- **ぶれないコンパス（羅針盤）を持つこと**
- **地図を持ち、そこに目的地を描くこと**

一番目は、つまり知識・技能・経済力をどう身につけていくかという「自立」の問題です。二番目は、働く上での主義・信条・哲学・価値といったものをどう築き、どう自分を方向づけていくかという「自律」の問題になります。そして三番目は、自分の仕事に意味を与え、どんな目的に向かって自分自身を導いていくかという「自導」の問題です。

二〇代での最優先課題は船をきちんと造ること、すなわち「自立」ですから分かりや

すいし取り組みもしやすい。根気があれば何とかなります。

しかし、三〇代以降に求められる「自律」や「自導」の問題は、決して一筋縄ではない作業です。

みずからの価値観をまっとうに醸成し、ぶれないコンパスを持つこと。中長期の視野に立って創造的意志を起こし、自分が目指す方向性や像を地図として描くこと。それと同時に、そこからの逆算で不足する知識や技能を新たに習得して、船を補強すること——これらは、もはや「自分の仕事観」なしには解決のできない問題です。

「ぶれない自分の仕事観をつくる」

これがこの本のメインテーマです。

ここには、「観」をつくるためのキーワードが八〇個用意されています。ただし、キーワードはあなたの仕事に対する直接的な「答え」ではありません。

「観」というものは、最終的には自分でつくるものです。他人の受け売りや借り物で済ませることはできません。ですから、この本には答えや即席のハウツーは書いてありません。この八〇のキーワードをきっかけとし、自分の目の前の状況に照らし合わせながら自分なりの解釈を腹で行なうことが大事です。

世の中には、知識本やハウツー本・成功本が数多くあります。私はそれらの本を否定はしません。むしろ、いろいろ一理があつて有益だと思えます。

しかし、自分に仕事観をつくらない状態では、これらの本に翻弄されるだけです。常にそういう類のものを読んでいないと落ち着かない、あるいは、玉石混交の中からいいものを判別できないということになります。

仕事観をつくることで初めて、知識・技能・ハウツー情報に「頼る・振り回される」から、「活かす・取捨選択できる」へと変わることができるのです。

また、もっと重要なことは、いい仕事観をつくれれば、いい仕事観をもった人たちに引き寄せられ、いい仕事チャンスに恵まれるようになることです。そうした中でコンパスがつくられ、地図に目的地が描けるようになってくるわけです。二〇代終わりから三〇代にかけてこの回路に入ることこそ、あなたが得るべき最重要のものです。

では、あなたの未来へと続く八〇のキーワードがここから始まります。